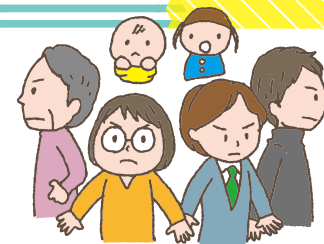


コロナ対策下で子どもたちを支えるために



症状は？

感染力の強いオミクロンの流行に伴い、国内でも2022年に入って子どもの新型コロナウイルス感染症が増えています。子どものコロナウイルス感染症の多くは軽症ですが、クルーズや熱性けいれん、脳炎脳症の報告もあり、決して軽くみてよい疾患ではありません。新型コロナウイルス感染症の症状は、**発熱や咳、咽頭痛、だるさなど一般的な風邪症状とほぼ同じ**で、それはオミクロンの場合にも同様です^[1]。

また、オミクロンの場合、小児では喉頭炎(クルーズ)がこれまでのコロナ感染症より起こりやすいとの報告もありますが^[2]、症状は基本的に子どもがよくかかる風邪とほぼ変わりませんので、**一般の風邪とコロナ感染症の見分けは小児科医でも難しい**です。

冬になるとインフルエンザの流行も懸念されますが、その区別もなかなか難しく、周囲の感染状況や、抗原検査・PCR検査などを活用して判断することになります。



コロナでよくある症状^[3]

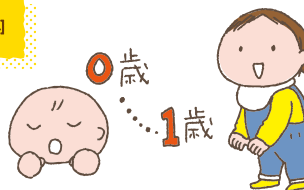
- ✔ 発熱
- ✔ 熱性けいれん
- ✔ 咽頭痛
- ✔ 嘔吐



特に気を付ける(重症化リスクがある)のはだれ?^[4]

2歳未満(0~1歳)

乳幼児は気道が細くつぶれやすいため、風邪などの呼吸器感染症で重症化しやすい年齢といえます。



基礎疾患のある子ども

基礎疾患とは：
慢性呼吸不全 重い神経疾患のある子ども(いわゆる医療的ケア児)
生まれつき心臓や腎臓の病気がある、ダウン症候群などの先天性疾患
小児がんなどで治療中のため免疫が落ちている子ども、糖尿病、高度肥満児など非常に多岐にわたるため、気になる場合は主治医に確認が必要

ただし、**基礎疾患のない健康な子どもでも一定の割合で重症化することも分かってきました^[4]**。

MIS-C(小児多系統炎症症候群)^[5]

コロナに感染した子どもが、**2~6週後**に発熱や腹痛、下痢などの胃腸症状、胸痛や呼吸苦など複数の臓器に重い症状が出る病気。(海外でまれに報告)
平均年齢は**8歳前後と年長児**に多く、発疹や目の充血など川崎病に似た症状を示すこともあります。
ただし、海外で報告がありますが、日本を含む東アジアでの報告はまれです。



コロナ禍で病院を受診する目安は？

感染症の症状がある患者については、医療機関ごとに受診時間や受付場所をかえるなど感染対策を工夫している場合があります。受診前に医療機関への確認が必要です。

子どもが**く・ねる・あそぶ**ができていれば慌てて受診を考える必要はありません。



新型コロナ以外にも注意する子どもの病気はたくさんあります 例

RSウイルス感染症などの気道感染症

RSウイルス感染症は乳幼児の入院が多い気道感染症です。

腸重積や虫垂炎などの消化器疾患

6か月から2歳に起こりやすく嘔吐や血便などの症状が出る腸重積や、学童に起こりやすい虫垂炎など、高熱が出なくても注意が必要です。

医療機関をすぐに受診



✔ **生後3ヶ月未満児で38℃以上の発熱がある**
(掛物など環境調整しても下がらない場合)

✔ **呼吸が苦しい**

- 肩で息をする
- 近くでゼイゼイが聞こえる
- 鼻の穴がびくびくしている(鼻翼呼吸)
- 鎖骨の上や肋骨の下がくぼんでいる(陥没呼吸)
- 呼吸回数が多い
目安 乳児:1分間に50回以上
幼児:1分間に40回以上
学童:1分間に30回以上

✔ **ぐったりしている(顔色が悪い)**

✔ **水分が摂れず、半日以上尿が出ない**

✔ **初めてけいれんした**



発熱の有無だけにとらわれず
「ぐったり(普段と違う)」「水分が摂れない」場合には注意が必要。

診療時間内に受診

✔ **元気もあり、水分も摂取できているが気になる症状がある**

受診の目安に困ったら

- ☎ **#8000** 小児救急電話相談
- 📺 **小児科学会 on-line 子どもの救急** <http://kodomo-qq.jp/>
- 📺 **教えてドクター** <https://oshiete-dr.net/>



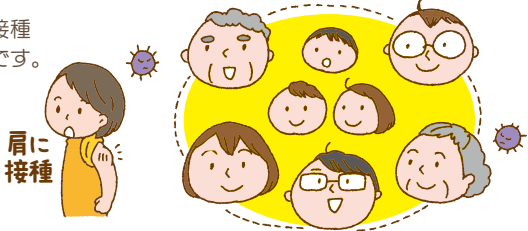
子どもの新型コロナウイルスワクチン

生後6か月から接種可能

生後6か月以上で接種可能

子どもを守るためには、まずは周囲の成人への接種(保護者、子どもに関わる仕事の従事者)が重要です。

まずは周りの成人への接種が重要



実際の接種は?

成人と同じ筋肉注射です(肩に接種)。特別痛みが強い接種方法ではありません。熱が出た時の対応: 普通の予防接種と同様で、安静にしましょう。解熱剤(アセトアミノフェン)を使うこともできます。

4歳以下 3回接種

2回目 初回接種から通常3週間後 3回目 2回目接種から8週間以上

5歳以上 2回接種 → 時間を空けて追加接種(3回目)

2回目 初回から通常3週間後 3回目 2回目接種から5か月以上

ワクチンは無料で接種できますが、無料の期間は、現時点で令和5年3月31日までです。

接種を優先すべき対象

生後6か月以上のすべての子ども 日本小児科学会は、生後6か月から17歳までの小児に新型コロナウイルスワクチンを推奨しています^[6]。

推奨の理由

- 小児患者が急増し、重症例や死亡例が増加
- 熱性けいれんやクルーズ症候群も増加し、入院に至るケースも増えた
- 副反応は成人より軽い傾向(12~17歳は成人と同じ割合)

重症化予防 副反応

メリットとデメリットを本人と保護者で話し合おう

接種する決断も接種しないという決断も、どちらも子どもの健康のことを考えた上の決断です。接種しない選択肢を選んだ児童や保護者に対する同調圧力や差別は許されませんし、接種しないように圧をかけた声高に主張する姿勢も許されません。



ワクチン接種のメリット

感染そのものを防ぐ効果は高くないが、**入院予防効果は高く、重症化を防ぐ効果が期待できる。**

- 生後6か月~4歳^{[7][8]} ● 発症予防効果 73.2% ● 入院予防効果 42~84%(推定)
- 5~11歳^[9] ● 発症予防効果 65% ● 入院予防効果 60~80%

CDC(米国疾病対策予防センター)は
● 新型コロナにかかっても重症化を防ぐことができ、その中には長期や短期の後遺症を防いだり、入院を回避したりすることも含まれる。
● 学校やスポーツ、そのほかのグループ活動に安全に参加できる。としてます^[10]。

ワクチン接種のデメリット

ワクチン接種後の副反応があります。

16~25歳のコロナワクチン接種と比べると副反応症状が出る頻度は低いです。他のワクチンと比べると副反応は起きやすい

接種後に起こる反応 ^[7]			
	生後6か月~1歳	2~4歳	5~11歳
局所の腫れや痛み(不機嫌)	51%	30%	56%
疲れやすさ		30%	26%
発熱	7%	5%	51%

※乳幼児のワクチン接種後の発熱の割合は低く、ワクチン接種後に熱性けいれんのリスクが高くなる心配はそれほどありません。

コロナにかかったことがあっても接種した方がよい?

感染してもまたかかることがあります(再感染)、**ワクチン接種をしていると、再感染リスクを下げる**ことができます。米国小児科学会は、再感染リスクを減らせるとして推奨しています^[14]。

心筋炎の発症率は

副反応として心筋炎がありますが、**発症率は10~20代と比べて非常に低い**です。ワクチン接種による心筋炎のリスクは100万人当たり2.6人(2回目接種後)、コロナに感染した場合の合併症としての心筋炎発症リスクは100万人あたり1,500人(0.15%)とされています^{[11][12]}。

10~20年後の安全は?

開発されて10~20年も経っているワクチンではないため、**当然10~20年後の影響がないと現時点で証明することはできません**。ただしmRNAワクチンは短期間で分解され、体内に残ることはなく、また遺伝子に影響を与えることは考えにくいです。一方新型コロナに感染した場合の**10~20年後の後遺症についても分かっていません**。しかし既に成人ではコロナに感染後の後遺症として倦怠感や息苦しさ、胸の痛みなどが報告されており、米国小児科学会は小児についても同様の懸念があるとしています^[12]。

接種後の受診の目安 すぐに受診

- ☑ 接種30分以内に発疹などの皮膚症状、嘔吐などの消化器症状、呼吸が苦しいなど **1週間**
- ☑ 接種後**1週間以内**に息苦しさや胸の痛みがある



接種後の受診の目安 診療時間内に受診

- ☑ 接種後**2~3日**を超えてもだるさや発熱が続き改善しない **2~3日**



参考となるWEB

厚生労働省
新型コロナウイルスワクチンについてのQ&A

GOV-Next
こびナビ

新型コロナウイルス感染症やそのワクチンに関する正確な情報提供プロジェクト(医師が中心となって運営)

「ココクんの相談室」チャットボット(LINE)

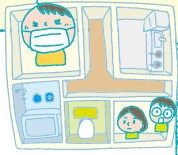
ワクチンに関するよくある質問に答えるLINEのチャットボットを利用した情報提供(医師が中心となって運営)

子どもの自宅療養^[15]も感染したら…

子どもが感染した場合、**家族は濃厚接触者になり、外出が制限**されます。その場合**どのように行動するか、事前に家族で話し合っておきましょう。**カード等引き落とし口座の残高確認、使い捨て食器、キッチンペーパー、個室とやりとりできる準備も事前にしていると安心です。家族内感染が多いので、**子どもの感染だけでなく濃厚接触者になった場合**もこの対応に準じて対策してください。

限定する

- 世話をする人を限定
- 子どもが過ごす場所を決め
トイレ・風呂・洗面所のみ家族と共有



入念な換気

- 窓を少し開けておく
- トイレなど感染した子どもが使う場所では換気扇をつけっぱなしにする



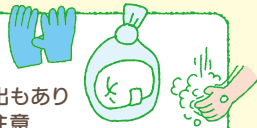
食事

- 可能ならば一人で別室で食事
- 難しければマスク着用で介助
- 子どもの食べ残しは食べない
- 別室がない場合ほかの家族と食事の時間をずらす
- 食器洗いは通常の洗剤でOK



トイレ・おむつ

- ウイルスは便への排出もありオムツの取り扱いに注意
- オムツは1つずつビニールに入れて捨て終わったら手洗いor手袋をつけて行う
- トイレの清掃は通常の掃除用洗剤でこまめに



入浴・清拭

- 感染している子どもが最後
- 浴槽の掃除は通常でOK
- タオルは共有しない
- 入浴中、子どもはマスクを付けない
- 体をふく時マスク・使い捨て手袋着用
- 洗濯は分ける必要なし。通常の洗剤でOK



✓ 遊びのケア

濃厚接触者の兄弟は、家の庭で兄弟だけで遊ばせるなど、遊びのケアが必要

✓ 接触者に連絡

発症2日前から接触した園、学校、学童、通院先、塾、教室、スポーツ、友達等に連絡

✓ どのように行動するか決めておく

消毒

- 療養する部屋の出入り前後は手指をアルコール消毒or使い捨て手袋着用
- ドアノブ・蛇口・スイッチなど共有部分



マスク着用

- 不織布マスクを使用する
- 2歳未満/マスク着用はなし
- 2歳以上/部屋で1人の時はマスク不要
- ケア時は可能なら子どもも装着(2歳以上)(入浴中、子どもは付けない)



着用時

添い寝・体を拭く・入浴介助・食事介助
療養する部屋への出入り時



共有しない

- タオル(洗面台・トイレ)
- 歯磨き粉
- 食事(大皿のおかず)



保護者が子どもに取るべき態度 米国小児科学会^[16]



感染症への不安

医療者や研究者など、世界中のみんなが研究や治療を頑張っているから大丈夫だよ、と安心させてあげてください。子どもはストレスをうまく言葉で表現できず、腹痛や頭痛、食欲不振、不機嫌など、**体の症状の一部として表出**することがあります。**不安に対する聞き役**になってあげてください。できるだけいつものルーチンワークを守ってください。

世界中のみんなが頑張っているから大丈夫だよ



差別のきっかけを作らない

感染症は差別が広まるきっかけとなります。**人種は関係ないこと、感染している人や入院している人は辛い思いをしていることを教えてあげてください。**子どもの前で**彼らへの共感や支援を言葉にしてあげてください。**周りに新型コロナウイルス感染症にかかった子がいる場合、回復して登校が許可されていれば、周りへの感染力はありません。**彼らへの差別が生まれないように支えてあげてください。**子どもは保護者の姿勢を見て学びます。



外出できないことで子どもたちに起こるリスク

1 家庭内事故のリスクが高くなる

子どもだけで過ごす事故のリスクが高くなります。台所(ケガ)、ベランダ(転落)、浴室(溺水)など、事故が起こりやすい場所の状況の再確認を。

2 運動不足/肥満傾向

子どもの心身の発達にとって運動はとても大切。小学生の身体活動の多くは登下校が担っているとの報告も^[17]。休校により運動不足になりやすくなります。



3 テレビ、スマホ、インターネットの時間が増える

一旦身についた生活習慣(運動不足・ゲーム時間の延長)はなかなか戻らないため、早くからの対応が大切です^[17]。

4 精神的なストレス

いつもの居場所(学校)、普段の生活サイクルが変わることによるストレスなど。



参考資料：
 [1] Brandel LT, et al: Euro Surveill. 2021; 26(50).
 [2] Martin B, et al: medRxiv. 2022; p.2022.01.27.22269865.
 [3] https://www.jpeds.or.jp/uploads/files/20220328_tyukan_hokoku.pdf.
 [4] 日本小児集中治療学会提言(2022年)
 [5] 日本小児科学会: 小児 COVID-19 関連多系統炎症性症候群 (MIS-C/PIMS) 診療コンセンサステーマット. 2021.
 [6] 日本小児科学会: [5~17歳の小児への新型コロナウイルスワクチン接種に対する考え方] (生後6か月以上5歳未満の小児への新型コロナウイルス接種に対する考え方)
 [7] <https://www.mhlw.go.jp/content/001004524.pdf>
 [8] <https://www.cdc.gov/vaccines/acip/meetings/downloads/slides-2022-06-17-18/03-COVID-Oliver-508.pdf>
 [9] N Engl J Med. 2022. 386(20): 1899-1909.
 [10] CDC (米国疾病対策予防センター): Covid-19 Vaccines for Children and Teens (Update Sep 5 2022)
 [11] 令和4年度第6回薬事・食品衛生審議会薬事分科会医薬品等安全対策部会安全対策調査会資料、副反応疑い報告の状況について 2022 (令和4)年7月8日開催
 [12] MWR Morb Mortal Wkly Rep. 2021;70(35):1228. Epub 2021 Sep 3.
 [13] AAP: Post-COVID Conditions in Children and Teens (Update Jan.13)
 [14] AAP ウェブサイト: <https://healthychildren.org/English/health-issues/conditions/COVID-19/Pages/covid-vaccines-for-kids-6-months-and-older-faq-for-families.aspx>
 [15] 国立成育医療研究センター: 新型コロナウイルスに感染したお子さんが「自宅療養」される際のポイント
 [16] AAP. COVID-19: What Families Need to Know
 [17] 菊池信太郎: 震災による子どもたちの変化と対応、産婦人科の実際. 2018;67:417